



プレスリリース

2016年5月16日

報道関係各位

日本イーライリリー株式会社
学校法人金沢医科大学

EL16-29

米国リリー社、金沢医科大学と 難治性胃がんの新規治療薬開発に関する 共同研究契約を締結

2016年4月27日、イーライリリー・アンド・カンパニー(本社:米国インディアナポリス。以下、米国リリー社)は、学校法人金沢医科大学(所在地:石川県河北郡。以下、金沢医科大学)と、難治性胃がんであるびまん性胃がんの新しい治療法に関する共同研究契約を締結いたしました。この契約により、今後米国リリー社は金沢医科大学と協力し、種々の胃がんの特徴を反映するユニークな動物モデルを活用し、リリーオンコロジーのパイプラインにある化合物の有効性を確認します。

この共同研究契約は、米国リリー社が、昨年9月に日本で初めて開催した創薬共同研究のマッチングイベント「イノベーション・デイ・ジャパン」の成果の一つです。

『研究開発こそ企業の魂である』という創業以来の理念を受けつぎ、米国リリー社は、1876年の創業当時からイノベーションを志向し、最近では他社に先駆けて、社外の研究機関や大学などと協力して創薬を目指すオープン・イノベーションを実践してきました。現在、国内においても、日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン)が日本のアカデミアと連携して早期探索や橋渡し研究の共同研究も始めています。中長期的な事業目標として、日本国内での(他社との提携を含めた)研究開発に注力し、体制を整えたうえで、2020年までに日本発の創薬シーズの世界同時開発に着手することを目指しています。

金沢医科大学 腫瘍内科学講座 安本和生(やすもと かずお)特任教授と米国イーライリリー社との共同研究では、現在、効果的な治療法がない難治性胃がんである、びまん性胃がんを対象とした研究を行います。日本を含むアジアでの発症が多い胃がんについて独自のノウハウを持つ日本の大学との協力により、世界が求める難治性胃がんの新規治療薬を早期に開発する試みです。

安本特任教授は次のように述べています。「我々はこれまでの研究により、確立された複数のびまん性胃がんの動物モデルから、治療に結びつく新たながんの発症進展機構を明らかにしてきました。リリー社との共同研究において、リリー社の臨床化合物の有効性を確認し、難治性胃がんの新規治療法をできるだけ早期に具現化したいと考えています」。

米国リリー社 オンコロジー領域の開発・メディカル部門担当バイスプレジデントであり、リリーのニューヨーク研究所のシニア・バイスプレジデントでもあるグレッグ・ブラウマン医学博士は、今回の契約締結にあたり次のように述べています。「今回の共同研究は、昨年、東京で初めて実施したイノベーション・デイ・ジャパンの直接の成果です。安本特任教授の研究室は、本研究の対象であり、胃がんの中でも悪性度の高いサブタイプである腹膜播種及びがん性腹膜炎のエキスパートです。

腹膜播種及びがん性腹膜炎には大きなアンメットニーズがあり、当社としても非常に関心のあるところですが、この事業は患者アウトカムの改善を目指し、個別化医療に向け併用療法に取り組むリリーオンコロジーの戦略に

合致するものです。この取り組みで世界のがん患者のみなさまに、新しい治療法をお届けできることを期待しています」と述べました。

日本イーライリリー研究開発本部オンコロジー領域本部長:吉川 彰一は、「本連携を通じて日本のがん領域における橋渡し研究がさらに活性化し、日本発の革新的医薬品が日本のがん患者さん、更には世界のがん患者さんのアンメットメディカルニーズにお応えすることを期待しています。」と述べました。

「イノベーション・デイ・ジャパン」について

米国リリー社は、日本国内に焦点を当てた創薬共同研究のマッチングイベント「イノベーション・デイ・ジャパン」を2015年9月10～11日に開催しました。重点領域である、がん、糖尿病、アルツハイマー型認知症、自己免疫疾患、疼痛の5領域で創薬シーズを募集し、「ファースト・イン・クラスになり得ること」が応募の条件で、「実証されたモデル系を持ち、何らかのヒットもしくはリード候補品があればなお望ましい」としました。社内でマッチング結果をまとめ、最終選考に残った研究機関と共同研究契約の締結に向けて協議してきました。

イーライリリー・アンド・カンパニーについて

リリーは、世界中の人々の生活をより良いものにするためにケアと創薬を結び付けるヘルスケアにおける世界的なリーダーです。リリーは、1世紀以上前に、真のニーズを満たす高品質の医薬品を創造することに全力を尽くした1人の男性によって設立され、今日でもすべての業務においてその使命に忠実であり続けています。世界中で、リリーの従業員は、必要とする人々の生活を変えるような医薬品を開発し届けるため、病気についての理解と管理を向上させるため、そして慈善活動とボランティア活動を通じて地域社会に利益を還元するために働いています。リリーについての詳細は次のウェブサイトをご覧ください。www.lilly.com および <http://newsroom.lilly.com/social-channels>.

日本イーライリリー株式会社について

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、疼痛、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、胃がん)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はウェブサイトをご覧ください。<http://www.lilly.co.jp>

学校法人金沢医科大学について

金沢医科大学(1972年開学)は、「良医を育てる」「知識と技術をきわめる」「社会に貢献する」という建学の精神のもと、「倫理に徹した人間性豊かな良医の育成」を実践し、豊かな知識や技術と思いやりの心とを兼ね備えた医療人を社会へ送り出しています。また、研究面では学外機関とも積極的に連携しながら、基礎研究の成果を臨床応用に橋渡しするトランスレーショナルリサーチの推進を通じて、新しい医療の開発に努めています。金沢医科大学病院(1974年開院)は、1994年4月に北陸地方で初めて特定機能病院の指定を受け、2007年1月には集学的がん治療の実績が高く評価され、地域がん診療連携拠点病院に指定されました。また、2016年2月には「再生医療センター」が完成し、北陸地域における再生医療の新たな臨床・研究拠点として期待されております。詳細はウェブサイトをご覧ください。<http://www.kanazawa-med.ac.jp/>